平成 27 年度　ＳＧＨ成果発表会を開催しました

広島大学附属福山中・高等学校　研究部

2016年3月9日に３年生・４年生・一部の５年生が参加して、広島県民文化センターふくやまにおいて以下のような日程で「平成27年度　ＳＧＨ成果発表会」を行いました。

１．場所　広島県民文化センターふくやま(広島県福山市東桜町 1-21)
２．日程　13:30～14:00　受付
14:00～14:15　開会行事
14:15～14:55　「体験グローカル」課題研究発表
14:55～15:05　（休　憩）
15:05～15:15　「体験グローカル」タイ研修報告
15:15～15:25　「提言」アクサユネスコ協会減災教育プログラム発表
15:25～15:35　「提言」オーストラリア研修報告
15:35～15:55　「スーパーグローカル」「提言」課題研究発表
15:55～16:10　ご講評(立教大学グローバル教育センター長/経営学部教授 松本茂先生)
16:10～16:30　閉会行事

当日は保護者や教育関係者にも多数出席を頂き、盛大に開催することができました。各発表の具体については以下のようになります。

「体験グローカル」課題研究発表

体験グローカルでは、テーマとして取り上げた４つの領域（技・特許・環境・食）について、５～６名で編成した班で課題研究を行いました。成果発表会では、各領域から選出された一班がそれぞれ発表を行いました。それぞれの班の題目は以下の４つでした。

「技」　：日本の造船業と海運業の未来
「特許」：ＴＰＰと医薬品　―ＴＰＰによる医薬品に関する各国の医療に及ぼす影響の調査―
「環境」：芦田川の水質と治水
「食」　：「食」から瀬戸内を活性化！計画　―瀬戸内地区のＢ級グルメ―

「食」で発表した生徒５名はすべて英語で発表しました。

「体験グローカル」タイ研修報告

今年１月に行われたタイ研修に参加した４年生の10名を代表して２名が、研修の活動報告を行いました。福山からタイに進出している企業や日本貿易振興機構（JETRO）などを訪問したり、タイの学生と交流したりして日本とタイの結びつきや、文化・社会環境の違いなどを学んできたことを紹介し、これからの課題研究に活かしていく決意を表明しました。

「提言」アクサユネスコ防災教育プログラム発表

天文地学クラブに所属する生徒が「地域の災害・防災の状況を知る」・そのことを「周囲に伝える」ことを目的として、実地調査を行ったり、その調査結果を用いて防災を呼びかけるパンフレットやポスターを作成し、イベントを通じて多くの方々に広報したりしてきた活動を報告しました。発表会当日、会場のロビーには生徒が作成したポスターやパンフレットも掲示されました。

「提言」オーストラリア研修報告

昨年８月に行われたオーストラリア研修に参加した５年生の生徒10名を代表して２名が研修の活動報告を行いました。インターネットを用いて事前に交流していたオーストラリアの高校を訪問し、生

活・文化といったテーマで生徒と議論したことや、大学訪問と大学生との交流、日本とオーストラリアのつながりを感じられる施設等の訪問について報告しました。

「スーパーグローカル」「提言」課題研究発表

オーストラリア研修に参加した生徒から２名が、研修で学んだり調査したりしたことや、インターネットを用いて研修後も継続的にオーストラリアの高校と連絡を取り合い行ってきた個人の課題研究について発表しました。

一人は「女性の社会進出」をテーマに、日本とオーストラリアの現状や政策を比較したり、訪問した高校の生徒にアンケートを実施したり、広島大学大学院の留学生と議論したことをまとめ、発表しました。

もう一人は、「Diversity in Education　-Human Resource Development and Education-」というタイトルで、「多様性」に注目して、オーストラリアの高校や大学の訪問を通じて感じた、様々な民族が共存できるためや、障害のある方のことを考えることができる教育プログラムから、「より良い教育・教育環境の在り方」についてすべて英語で発表しました。

ご講評

当校の運営指導委員である立教大学グローバル教育センター長/経営学部教授である松本茂先生からご講評を頂きました。松本先生からは、発信・発表する力や英語を活用する能力の高さを評価していただくと同時に、「より質の高い課題研究・発表にするために」という点から、

①使用するデータの出典を明確にすること。

②発表する内容を精査すること（聴衆目線に立った発表にすること)。

といった、これからの課題研究につながる言葉を頂きました。

成果発表会に参加された運営指導委員の先生方からも、「“こんな舞台で発表できた”“英語で発表ができた”という、学んだことを活かすことができた達成感は、普段の授業へのモチベーションに必ずつながってくると思います」といった言葉や、「中学生・高校生の時に海外（異質な文化・社会）を経験することは将来を考えたり、日本や地元を考えたりしていくうえでも大切なこと。多くの生徒に海外を体験できる場をこれからも提供していってください」という言葉を頂きました。

また、松本先生と同じく「より質の高い課題研究・発表にするために」という点から、仮説設定の在り方や、「結果」と「結論」、それに対する自分の「主張」の明確な線引きを生徒が自覚すること、といった課題研究の進め方に関する言葉も頂きました。

ご講評をしてくださった松本先生からは、『生徒が取り組んでいる課題研究は正解のないことなので,「より知識を持っているから先生をやっている（指導をしている)」という観点からではない指導ができると思います。だから「こうやって調べたら」とか「こういう人に聞いてみたら」と、いうふうに寄り添える教師がこれからの教育者の一つのモデルになると思います』という言葉を教員に対してかけていただき、ＳＧＨや課題研究を指導していくにあたって、これからの教員のあるべき姿を示して下さいました。